



西澤 裕之

Q、幌延深地層研究センターの研究は、当初の計画どおりに進められるのか。A、今後とも計画どおり進める必要があると考えている。

質問 深地層研究センターは、町の政策・施策に大きな影響を与える施設だと認識している。研究等の縮小は、商工業者を含め町の経済活動や、人口規模に大きな影響が生じるものと考えているが、町長の認識はどうか。

町長 幌延町にある施設は原発ではないし、放射性廃棄物を持ち込まない施設です。地層処分研究の技術開発を目的に行っており、その研究やPRの予算が削られるという話は聞いていない。今後も地域振興のために原子力機構を始め、関係省庁に推進の依頼をして参りたい。

質問 当初の計画では、地下500mまで掘削するとの説明だったが予定どおり行うということを確認をしているのか。

町長 平成25年度までに、東立坑・西立坑・換気立坑と、350mまで掘削する予定と聞いている。原子力機構と本社の方に問い合わせたと

ころ、当初計画どおり、いささかも変更はしていないと伺った。最終的には、500mまで掘削すると認識している。

質問 福島第一原子力発電所の事故後、最終処分の問題が報道で取り上げられ、幌延深地層研究センターの重要性は、以前にも増して高まっていると感じている。今後の処分研究においては、あらゆる可能性を想定内に含めて研究をしていかなければならないと思っている。町としても、深地層研究センターに申し入れなどできると思うが、どう考えるか。

町長 想定外と言えども、あのような被害が起きてくることは事実。深地層研究センターにおいては、更に安全度を高めるような研究をする必要があると考えている。また、幌延町の住民を始め、道民・国民が安心して生活できるような、安全対策をより強化して頂きたいと思っている。

質問 東日本大震災でどう支援したのか。

町長 物資では非常食100食、毛布40枚3月18日に搬出。援助金は町単独で100万円送金。空いている公営住宅への被災者の受入と仮設住宅用地提供を申し出ている。

質問 安全神話は崩れたか。

町長 崩れたというか、相当未曾有の状況であると思う。

質問 介護事業の休止はいつ知ったか。

町長 5月に入ってからかな。

質問 それまで何も情報が出なかったのか。

町長 ヘルパーの方々、辞めるとか、休んでいるという事は耳にした。介護を受けられている方々に絶対不便を掛けないように、会長、事務局長に話をした。

質問 しかし、利用者には5月21日に休止という報告をしますが、現状はどうなのか。

町長 人事、組織については干渉すべきでないと考えて



齋賀 弘孝

Q、介護事業所の休止で町長として助言はしたか。A、独立した法人のため、人事については干渉できない。

る。4人を新しく採用し、今後段階を踏んで7月には事業再開予定と聞いている。

町民課長 5名の応募あり、4名を採用、必要な研修、講習を踏むと7月いっぱいから、それからの事業再開の可能性もある。

質問 今不便な生活をしている人がいる。どういう理由でヘルパーさんが辞められたのかその理由を改善をどうするのか。

町長 ご理解頂きたい。町長でも、民間で組織している、あるいは、全国組織の中の社協で、会長も事務局長も理事、評議委員長もおられ、そこで協議して決めた事には、どうこうっていうことにならない。

質問 職員研修でスキルアップとは何か。又、研修の方法は。

町長 職員個々の能力を研修により向上させ、協働のまちづくりとその能力を活かすのをスキルアップとし、3年かけて、人材育成事業として、スタートさせる。主査以下職員全員を参加。

『幌延ほおずき 俳句会』を訪ね

会長 横山 貞雄

Q. どのような活動をしていきますか。

A. 昭和47年に発足して以来活動を続けています。会員の高齢化が目立ちますが、毎月一回集まり、「十七文字」の世界で、幌延町の自然を題材に、兼題を決めて句会を行っています。また、町広報誌に掲載したり、生涯学習センターに展示しています。指導は、現代俳句協会会員で事務局長の田中徹男氏が中心となり、定例会と九月には吟行会を計画しています。町の文化祭にも参加して、地域の自然を一句に託しています。

〈会長さんから一言〉
俳句はげ防止しかな？
日々自然環境に溶け込んで、一日の生活を楽しく過ごすことが出来ます。ほおずき俳句会には是非来てみて下さい。



会長 横山 貞雄

サークル紹介

『幌延ほおずき

俳句会』を訪ね